



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

京都生活協同組合

発行

サステナビリティ推進部

〒601-8382 京都府京都市南区吉祥院石原上川原町1-2

組織概要

創 立：1964年11月27日

理 事 長：畑 忠男

事業活動エリア：京都府全域

事 業 所：支部 10 / 店舗 18 / 葬祭事業 1 / 介護事業所 6

子会社・関連会社：5社

2022年度概況 (2023年3月20日)

組合員数：568,856人

事 業 高：833億7,399万円

出 資 金：185億3,786万円

職 員 数：1,562人 (7.5時間換算)

本レポートでは、理念や2030年ビジョンに向かって取り組むことを、「私たちが実現したい姿」で示す4つの項目に沿い、事業と活動内容を報告します。



用紙：この製品は、適切に管理されたFSC®認証林、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料で作られています。

印刷インキ：植物由来の資源を原料の一部に使用して製造したインキを使用しています。

本冊子のご意見・
ご感想をお寄せ
ください



発行：2023年6月



サステナビリティレポート 2023



INDEX

- 03 理事長メッセージ
- 04 理念/2030年ビジョン/ブランドロゴ
- 06 コープSDGs行動宣言

- 08 平和について考える
- 10 人や産地 つながり 取り組み
- 12 コープのエシカル
- 14 食品ロスの削減
- 16 プラスチックの削減

私たちが実現したい姿

- 18 総合力で普段の暮らしへの役立ちを高める
- 20 安心して暮らせる地域社会づくり
- 23 持続可能な世界の実現に向けて
- 26 多様性を認め合う活力ある組織を目指して

- 28 運営参加
- 30 事業紹介 / サービス / グループ会社

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「頼もしき隣人たらん」の 想いを未来へ

「頼もしき隣人たらん」。

京都生協は1964年、高度経済成長による物価の高騰などで暮らしに不安が募る中、「お互いに頼もしき隣人となりましょう」と初代理事長が呼びかけ設立しました。この言葉を私たちは今も「理念」として大切にしています。

新型コロナウイルス感染症は5月より感染症法上の分類が5類になりました。3年間のコロナ禍は私たちの暮らしに大きな影響を与えました。オンラインでのコミュニケーションが身近なものになり、また非接触が求められ、キャッシュレスの普及も進みました。半面、オンラインでは伝わらない、人と人とのつながりの大切さも再認識できたのではないかと思います。

2015年に国連総会で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、今や社会の共通言語となり、持続可能な地球・社会を実現しようと、世界中の人々が力を合わせて、さまざまな取り組みが広がっています。気候変動への対応、温室効果ガスの削減、プラスチック問題、食品ロスの削減、核兵器廃絶等の取り組みを前進させることが求められています。合わせて、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は長期化の様相を呈しており、多くの尊い命が失われています。改めて、平和の大切さを認識するとともに、一人ひとりに関心を持ち、平和への想いを声に出すことが大切だと考えます。同じ地球に暮らす人間として国際協力の中で、さまざまな問題解決がはかれることを願ってやみません。

今、物価の高騰や暮らしの中でのさまざまな不安がある中、創立時から続く京都生協の理念である「頼もしき隣人たらん」の精神で、事業と活動を通じて皆さまの暮らしを総合的に支え、さらに社会的な役割を發揮できるような、また未来に向けて明るい希望を創造できるような京都生協を皆さまとともにつくりたいと決意しています。

理事長 畑 忠男



理念／2030年ビジョン

理念 頼もしき隣人たらん

私たちは、相手を気にかけて、困っていることはともに考え行動し、暮らしに寄り添い、支え合っていく「頼もしき存在」であり続けます。

2030年ビジョン 京都生協は新たな希望をつくる

次の世代、そしてさらに次の世代へ「安全・安心」な地球環境を手渡していけるように、組合員や職員そして関係する全ての人々と力を合わせ、『新たな希望』をつくります。

ブランドロゴ



地域

暮らしを豊かにするコミュニティ、明るく楽しく開かれた自由な場

KYOTO COOP

おいしいを届ける私たち、希望をつくる私たち

地球

グローバルな視点で暮らしを支え、持続可能な世界の実現に貢献

これまでの「安全・安心・信頼」といった基本的な提供価値を継承し、新たな姿勢表明として「KYOTO COOP」「地域」「地球」を表しました。 私たちが暮らす町や、地域社会や地球(世界)が持続可能であるように、「安全・安心」により磨きをかけるとともに、多様な人々を認め合い、助け合う関係を紡ぐ希望ある社会を3つの輪にこめました。さまざまな色やパターンを用いて、KYOTO COOP が目指す「多様性・つながり・自由で楽しい」を表現しています。

サブグラフィックエレメント[※]について

第1～7原則までである「協同組合原則」は、協同組合がその価値を実践に移すための指針です。世界中の協同組合の共通のルールとなっています。この原則をモチーフにしたデザインを配達トラックの架装などに用いて、「多様性・つながり・自由で楽しい」を表現しています。








※ブランドロゴを補完するグラフィック要素

<p>■第1原則 自発的で開かれた組合員制</p> <p>オープン モチーフ：開いているさま</p>	<p>■第2原則 組合員による民主的管理</p> <p>平等 モチーフ：均等に分けられたかたち</p>	<p>■第3原則 組合員の経済的参加</p> <p>参加 モチーフ：加わる・プラス</p>	<p>■第4原則 自治と自立</p> <p>自立 モチーフ：干渉し合わない自立する縦線</p>
<p>■第5原則 教育、訓練および広報</p> <p>学び モチーフ：向上心、矢印</p>	<p>■第6原則 協同組合間協同</p> <p>つながり モチーフ：接点、連なり</p>	<p>■第7原則 コミュニティへの関与</p> <p>かかわり モチーフ：重なり合う波紋</p>	<p>協同組合原則</p>



コープSDGs行動宣言

日本生協連は、2018年6月15日に開催された、第68回日本生協連通常総会にて「コープSDGs行動宣言」を採択しました。「持続可能な開発目標（SDGs）」について、生協もその一端を担うべく、7つの取り組みを通じてその実現に貢献することを約束します。

<p>持続可能な生産と消費のために、商品と暮らしのあり方を見直していきます</p> 	<p>地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します</p> 	<p>世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します</p> 	<p>核兵器廃絶と世界平和の実現を目指す活動を推進します</p> 
<p>ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します</p> 	<p>誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します</p> 	<p>健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます</p> 	

17 パートナリシップで目標を達成しよう
 ・協同組合間協同
 ・地域団体、NPO、行政、自治体などとの連携

1 貧困をなくそう
 ・ユニセフ支援活動
 ・フードドライブ

2 飢餓をゼロに
 ・WFP学校給食プログラム支援

3 すべての人に健康と福祉を
 ・福祉事業
 ・介護食品の供給
 ・ピンクリボン運動支援

16 平和と公正をすべての人に
 ・ヒロシマ・ナガサキのピースアクション
 ・沖縄戦跡基地めぐり

15 陸の豊かさも守ろう
 ・森林環境配慮型製品の開発と普及（FSC®など）

14 海の豊かさも守ろう
 ・海洋環境配慮型製品の開発と普及（MSCなど）

13 気候変動に具体的な対策を
 ・事業での温室効果ガス排出削減
 ・家庭での削減啓発

12 つくる責任 つかう責任
 ・産直
 ・エシカル消費推進
 ・プラスチック問題への対応

11 住み続けられるまちづくりを
 ・地域見守り活動
 ・買い物困難者支援
 ・被災者支援活動

10 人や国の不平等をなくそう
 ・ユニセフ支援活動
 ・フェアトレード

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 ・自動発注
 ・セミセルフレジ

4 質の高い教育をみんなに
 ・食育
 ・消費者市民社会づくりの活動実施

5 ジェンダー平等を實現しよう
 ・男女共同参画に向けた取り組み

6 安全な水とトイレを世界中に
 ・コアノンスマイルスクールプロジェクト

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
 ・再生可能エネルギーをつくり、使い、ひろげる取り組み

8 働きがいも経済成長も
 ・健全な経営
 ・ワークライフバランスの強化



京都生協とSDGs

SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年9月に開催された国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。2030アジェンダは、2016年から2030年までの国際社会共通の目標を掲げています。この目標が、17分野の目標・169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。京都生協の事業や活動は、このSDGsの取り組みと重なり合っています。

平和について考える



「京都生協 平和への願い」に基づいて、平和な未来をつくるため、組合員や全国の生協、諸団体と協力し活動しています。

京都生協 平和への願い

2002年、京都生協の平和についての基本的な考え方を明確にし、平和の取り組みのさらなる発展を目指して「平和への願い」を作成しました。

「平和への願い」
はこちら



平和学習会

ピースポート共同代表 川崎 哲^{かわさき あきら}さんを講師に迎え、平和学習会「核兵器禁止条約って何？」を開催しました。組合員・職員の総参加者数は100人を超え、講演では、核兵器を禁止する国際条約である「核兵器禁止条約」について解説いただきました。

講師 川崎 哲^{かわさき あきら}

1968年生まれ。2003年にNGO「ピースポート」に加わり、現在、共同代表。国際運営委員を務める国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)」は、2017年にノーベル平和賞を受賞。



学習会の様子は
こちら



大学生とのトークセッション

原爆投下から77年となった2022年、全国の被爆者は15万人を下回り、京都府内でも900人を切りました。長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員の林田 光弘^{はやしだ みつひろ}さんより「核兵器廃絶を願って、私たちにできること」をテーマにお話いただいた後、忘れてはいけない戦争の記録を後世に残していくために、大学生・組合員・職員43人が参加してトークセッションを行いました。

はやしだ みつひろ 林田 光弘 話題提供者

2016年から2020年にかけて世界で1,370万人の署名を集めたヒバクシャ国際署名のキャンペーンリーダーを務める。現在は、被爆者の実相を伝えるデジタルアーカイブと教材づくりに取り組んでいる。

長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員。一般社団法人「長崎みんな総研」理事。明治学院大学大学院卒。

憲法学習会

今、最もわかりやすい憲法入門書として話題の『檻の中のライオン 憲法がわかる46のおはなし』の著者である弁護士 椋 大樹^{はんだうたい き}さんを講師に迎え、平和や人権について学びました。



講師 椋 大樹^{はんだうたい き}

1975年生まれ。2004年に広島弁護士会登録。現在、ひろしま市民法律事務所所長、日本憲法問題対策本部委員を務める。「明日の自由を守る若手弁護士の会」に所属し、憲法の啓蒙活動を始める。著書『檻の中のライオン』『けんぼう絵本 おりとライオン』など。

ユニセフ募金活動

京都生協では1989年からユニセフ募金に取り組み、2015年度よりミャンマーの「女性と子どものための栄養支援」プログラムを指定募金先としています。今年は加えて、2022年4月から5月に「ウクライナ緊急募金」を、2023年3月には「トルコ・シリア地震災害緊急募金」を呼びかけました。寄付金は日本ユニセフ協会を通じて各被災地での活用に役立てられています。

緊急支援募金

ウクライナ緊急募金

募金額 **5,260,309円**

- ・教育キットや乳幼児期の子ども向けの発達用キットなどの提供
- ・保健医療物資の配布、安全な水の提供
- ・子どもと保護者に向けた心理社会的支援
- ・避難民の安全な居場所設置

「トルコ・シリア地震」災害緊急募金

募金額 **1,423,621円**
(2023年5月現在)

- ・給水所の設置
- ・保健・栄養の予防、治療サービスの提供
- ・被災した学校の再開に向けたサポート
- ・「子どもにやさしい空間」を設置した心のケアの提供
- ・子ども用の防寒着、毛布、衛生キットなどの配布

立命館生活協同組合との協同組合間協同

日本財団主催の「The Volunteer Program for Ukraine」の「Student Charity for Ukraine」に参加している学生組合員に協力し、冬服をウクライナに届ける活動を支援しました。立命館大学の近くのコープきぬがさ店と京都生協本部に衣料品回収BOXを設置し、組合員や取引先、職員の協力を得て、ダンボール約30箱程の冬用衣類をNPO「UAid Direct」を通じてウクライナ国内にお届けしました。



人や産地 つながり 取り組み



京都生協は組合員、生産者などの取引先、地域とのつながりを大切にしています。

3年ぶりの会場開催 Coop Fan Meeting

「もっと知って もっとつながる ～COOPで推し活!～」をテーマに、組合員と生産者の集いであるCoop Fan Meetingを開催。オンライン配信と会場開催に分けて実施し、オンライン配信では、生産地から中継を結び、生産者や作業の様子などをお届けしました。3年ぶりの会場開催では、組合員と商品メーカー担当者との交流が生まれ、つながりの大切さを実感しました。



生産者と一緒に 親子食育企画

京都府生活協同組合連合会と共同主催で、店舗の産地消費場へ野菜を出荷している「西村農園」とともにオンライン食育企画を開催しました。生産者の西村さんとの交流やキャベツを使った料理・クイズに参加者からは「野菜嫌いの子供がおいしいと食べてくれるとわかって嬉しかった」などの声がありました。

(共催：京都府協同組合連絡協議会)



地域を応援 子育て支援

京都府在住の1歳未満のお子さまがいるご家庭にコープ商品が入った「はじまるばこ」を2016年からお届けしています。また、京都新聞社と「子育て支援に関する包括連携協定」を締結しており、子育て支援の輪を広げ、暮らしやすい地域づくりに取り組んでいます。

2022年度 はじまるばこ お届け数 **6,962人**
(累計お届け数 34,630人)



子どもはぐくみ室への商品提供

京都市東山区および、山科区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室が取り組む子育て支援事業に商品を提供しています。東山区の「赤ちゃんすくすくねと東山」では、子育て家庭と地域とのつながりをつくることで、子育てしやすいまちづくりを行っており、東山区で生まれた赤ちゃんへお届けする「東山はぐくみハッピーギフト」の一部には、**CO-OP** 赤ちゃんのおしりふきが採用されています。

助成金制度による子育て支援

京都府を拠点にSDGsに貢献するNPOなどの団体を支援するために社会貢献活動助成金制度を行っています。助成対象団体には子育て支援に取り組む団体も多く、地域の子育て支援の推進や活性化に取り組んでいます。

■助成金制度については
P22「社会貢献活動 助成金制度」で詳しく紹介

対象団体

- 洛西子ども食堂実行委員会 ふれあい食堂けやキッズ
洛西地域で子ども食堂を運営
- 五感で学ぶ料理教室 ククラボ
子ども・親子の食育支援や子育て支援に取り組む
- 特定非営利活動法人 フードバンク京都
寄付された食品を施設や団体、子ども食堂などにお届け

テーマ・コミュニティが表彰

京都市山科区で活動している京都生協のテーマ・コミュニティ「にじいろキッチン」が「令和4年度京都はぐくみ憲章実践推進者表彰はぐくみアクション賞」を受賞しました。にじいろキッチンは2020年3月より、ボーイスカウトに参加する保護者らが山科にあるお寺を拠点に高齢者から子どもまで集える居場所として地域子ども食堂を立ち上げ、人とふれあい安心できる環境づくりに取り組んでいます。

テーマ・コミュニティ

京都生協の方針に沿ったテーマの活動を地域で広げていくことを目的に、組合員が自主的に活動するグループのこと。京都生協は資金援助を行っている。

京都はぐくみ憲章実践推進者表彰

京都市では、「子どもと共に育む京都市民憲章推進協議会」による選考に基づき、憲章の実践に関して他のモデルになる活動や特色ある活動に取り組んでいる団体を表彰している。

コープのエシカル



京都生協では、地域や環境、社会や人々に配慮したエシカル消費を推進しています。「誰かの笑顔につながるお買い物」としてエシカル消費の啓発に積極的に取り組んでいます。

京都市との連携

京都市と締結した「エシカル消費普及促進にかかる連携協定」の一環として、京都市とイベントを共催したり、京都市ホームページへの情報提供などを行いました。

クイズラリー「エシカルな商品を探せ！」

コープさかの店では、エシカル消費クイズラリーを実施。店内を巡りながら楽しく学んでいただけるイベントに約300人の参加がありました。組合員からは「普段はマークがあっても意味を考えたことがなかったので知るきっかけになってよかった」などの感想が寄せられました。



京都市「エシカル消費」ポータルサイト

京都市ホームページでの京都生協のエシカル消費推進の取り組み紹介はこちらからご覧いただけます。



エシカル消費対応商品取り扱い点数 **約2,536万点** (前年度比110.1%)



FSC® 認証
責任ある森林管理をしている林業者を応援し、世界の森林保全につながる木材製品です。



CO-OP ティッシュ



カカオ



CO-OP カカオ70% チョコレート

レインフォレスト・アライアンス認証
人と自然にとって、より良い未来を推進する方法で栽培されたことを意味するマークです。詳しくはra.org/jaをご覧ください。

エシカル消費対応商品の普及

普段のお買い物でエシカル消費の実践ができ、関心が広がることを目指しています。

店舗

エシカル消費対応商品が分かるような売り場づくりを行っています。有機JASやFSC認証、エコマークなど関連マークが付いた商品を店舗の規模に応じて1カ所にまとめたコーナーをつくり、POPを該当商品に掲示するなど工夫しています。



宅配

カタログでエシカル消費対応商品のマークを定め、関連する商品に表示しています。また、多様にあるエシカル分野で、エシカル消費対応商品をまとめたチラシを配布し、商品の広がりを知っていただく機会をつくっています。



エシカル消費対応商品マークの一例



店舗でのマーク



宅配カタログでのマーク



コープ商品でのマーク



コープのエシカル
Ethical = 日本生協連公式サイト
▶ <https://goods.jccu.coop/ethical/>

食品ロスの削減



「食品ロス」とは本来食べられるのに捨てられてしまう食品のことで、社会的に問題となっています。京都生協ではこのような食品の「もったいない」を減らすために取り組んでいます。

フードドライブの拡大

フードドライブは家庭で使い切れない賞味期限内の未使用食品を持ち寄り、それらをフードバンク団体を通じて必要とする方々へ提供する取り組みです。新たにコープにしがも・コープきぬがさ・コープいわくら店で開始。寄付された食品は母子支援施設や子ども食堂といった支援を必要とする方々へ提供されました。

フードドライブ
開催店舗数 **16店舗**※/18店舗中

※改装休業中のコープ二条駅店を含む

総回収量 **7,536kg**

宅配物流センターにある予備商品のフードバンク提供を継続的に行っています。

提供量 **4,608kg**



食品廃棄の削減とリサイクルの向上

宅配事業

宅配でお届けした食品で注文間違いなどによる食品の返品点数は年間10万点にのぼり、その多くは廃棄となります。2021年度から宅配での食品良品返品は原則受け付けないこととするルールを設け、食品廃棄問題への対応に向けて取り組んでいます。

食品良品返品数 **48,460点**
(前年比 102.4%)

店舗事業食品廃棄物のリサイクル

店内調理時の食品残渣を、堆肥化などでリサイクルしています。

食品リサイクル率 **42.9%**

フードバンクのその先へ 提供先の紹介

寄付された食品はフードバンク団体を通じて、フードパントリー運営団体や福祉施設、子ども食堂などで活用されています。「左京連帯ひろば実行委員会」では、新型コロナウイルスなどの影響を受けて、経済的に困りの方々に、無料で直接食品をお届けするフードパントリーとしてお役立ちしています。

左京連帯ひろば実行委員会主催 フードパントリーの様子

フードパントリー当日



毎回、10代～80代の方まで、160～200組の方がご利用に

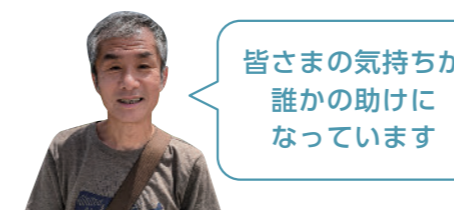
食品や日用品を受け取る



京都生協にお持ちいただいた食品も必要としている人の元へ届きます



配布された1人分の食料セット



皆さまの気持ちが
誰かの助けに
なっています

左京連帯ひろば実行委員会 **都築さん**

新型コロナウイルスや物価高騰の影響を受け、困窮する方へ、少しでも支援できればとの思いで、食品無料提供を行っています。組合員の皆さまの気持ちが誰かの手助けに確実に繋がっています。

近所に貼ってあったポスターを見て、この活動を知りました。支援物資をいただくことに対して、最初は抵抗感がありましたが、いろんな人たちが参加されていて気にするまでもありませんでした。



参加親子

助かっていますし、本当にありがとうございます。お米や缶詰、インスタント食品、子ども用のお菓子や野菜ジュースなんかもうれしいです。



参加親子

支援物資をいただけることももちろん助かりますが、コロナ禍で学校に行けなかった時、地域の人と関わることができたのはうれしかったです。



大学生

てまえどり

店舗では、お買い物の商品を手前から消費する「てまえどり」を推奨しています。すぐに食べるものは、手前の賞味期限が短い商品を選んでいただくことで食品ロスの削減につながっています。

「私にできるエシカル消費行動」をテーマに秋の総代懇談会で交流したところ「すぐに使うものは『てまえどり』を意識するようになった」「無理のない範囲で実践している」など、組合員と取り組む食品ロス削減の活動として広がっています。

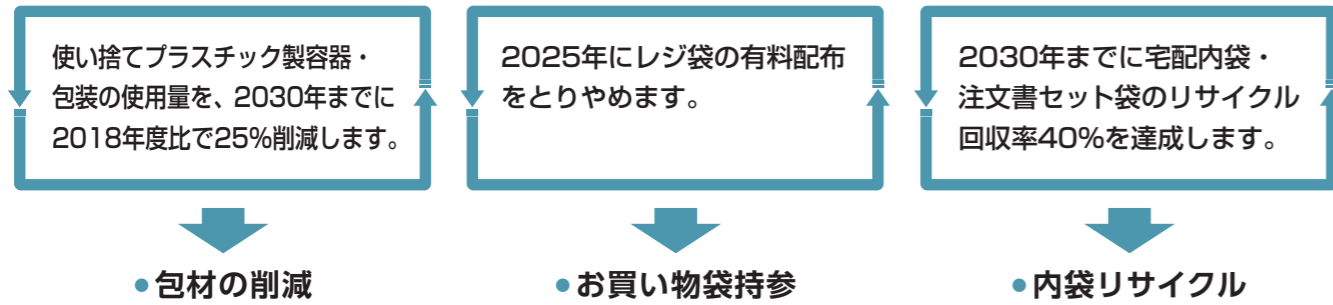


プラスチックの削減



プラスチックは安全かつ衛生的で、コストが安く加工しやすい特徴から日常生活にあふれていますが、「その後」が大きな課題になっており、地球温暖化や資源の枯渇、海洋プラスチックの原因にもつながっています。持続可能な地球環境のため、京都生協ではプラスチック削減の目標を定め取り組んでいます。

私たちの目標



数値目標は、社会的な水準を参考に、京都生協の未来のあるべき姿から逆算して目標を定める“バックキャストिंग”の手法で策定しました。社会情勢や進捗を踏まえて、見直すことがあります。

プラスチック包材の素材変更

ペットボトルから紙パックへ

脱プラスチックで自然資源枯渇の抑制に貢献

プラスチックは有限資源である石油を原料としています。

「**CO-OP** ミックスキャロット」と「**CO-OP** 彩果菜園フルーティーアップル」のペットボトルを紙パックに変更することでプラスチックを削減し、持続可能な社会づくりにつながっています。



店舗総菜で使用する透明トレーをペットボトル再生原料に

店舗総菜売り場で取り扱う透明トレーを、再生プラスチックを使用することでCO₂削減に効果のあるエコトレーに切り替えました。京都生協の店舗で回収したペットボトルも入っており、資源循環となっています。

お買い物袋持参運動

プラスチック削減に向けお買い物袋持参運動を日頃から呼びかけています。店舗でのお買い物袋持参率の向上を目指して、組合員が考えたマイバッグの持参をテーマにしたイラストとキャッチコピーを募集するキャンペーンを行い、全店舗から118作品の応募がありました。「エシカル消費普及促進に係る連携に関する協定」により、京都市と連携して実施しました。

お買い物袋持参率 **93.0%** レジ袋削減枚数 **1,153万枚数**

持参率が高い理由

京都生協は1996年よりレジ袋の有料化を開始し、マイバッグの持参を呼びかけています。



宅配内袋のリサイクル

商品お届け時の内袋をリサイクルするため、回収について定期的にチラシで呼びかけています。回収した内袋の圧縮などの作業は特例子会社のハートコープきょうとが担当し、プラスチック製品の原料に再利用しています。

内袋回収量 **34.9t** (前年比119.4%) 内袋回収率 **19.5%**



他にも

店舗と宅配の取り組み

店舗で配布するカトラリーを木製品に、ストローを紙製に変更し、プラスチック使用量を削減しました。宅配でも、注文用紙提出時に使用するクリアファイルを不織布の注文書セット袋に変更しました。1枚当たり41gのプラスチック使用を、14gまで削減することができました。



総合力[※]で普段の暮らしへの 役立ちを高める



京都生協が追い求めてきた食や暮らしの安全・安心は、今日の社会のスタンダードとなりました。持続可能な社会がさらに求められる今、食や暮らしだけでなく人への優しさや寄り添う心、人とのつながり、そして地球に対する「安全・安心」がこれからのスタンダードになると確信しています。

※総合力とは、組合員・取引先・職員がシームレスな連携を行うことで、組合員の利便性向上を目指すこと

KYOTO COOPアプリの登場

組合員のライフスタイルに合わせた新たなお買い物体験。すべてのサービスがデジタルで融合されたスムーズな購買体験を提供することを目的に、京都生協のトータルアプリ「KYOTO COOPアプリ」の提供を開始しました。

Web注文

宅配のネット注文がアプリから簡単に

スマートレシート

コープの店舗でお買い物した内容をアプリにお届け

きょうまるペイ

きょうまるカードを登録すれば、スマホひとつで支払いが可能に



総合力で楽しいサービスを

コープ山科新十条店で、「やましなコープフェス1119」を開催しました。地元の生産者による野菜マルシェをはじめ、コーヒーの淹れ方教室や、ブランドムービーの歌を担当する京都出身のシンガーソングライターのライブなど、地域の方々に楽しんでいただけるよう、京都生協のさまざまな事業が連携して取り組みました。



商品パッケージリニューアル

京都生協コープ商品のパッケージが新しくなりました。それぞれの商品には、京都生協のブランドロゴにある「3つの輪」と『協同組合原則』の7つの原則を表す「7つの輪」を組み合わせたデザインを使用しています。新パッケージには「スタンダード」と京都の老舗とコラボした「京の老舗」の2種類あり、商品の多様性、商品を通じたつながり、自由で楽しいイメージを持っていただけるようなこだわりが詰まっています。



商品の点検・検査の実施

商品を安心して利用いただくため、品質管理を担当する専門職員による点検・検査を実施し、商品の確かさ・安全性・品質を科学的に検証しています。

産地・取引先での点検の様子を公開中



検査名	内容	数
微生物検査	微生物リスクの高い食品は国の基準よりも厳しい生協の独自基準に基づき検査を実施します	2,765検体
理化学検査	残留農薬や放射性物質(セシウム)などの検査を行います	212検体
産地点検	産直商品の産地を訪問し、農畜産物の栽培、飼育方法などを確認します	58カ所
工場等の点検	京都生協コープ商品の製造工場が中心で、その他に取引先・店舗を訪問。衛生的な環境下で商品が製造・調整されていることなどを確認します	66カ所

安心して暮らせる 地域社会づくり



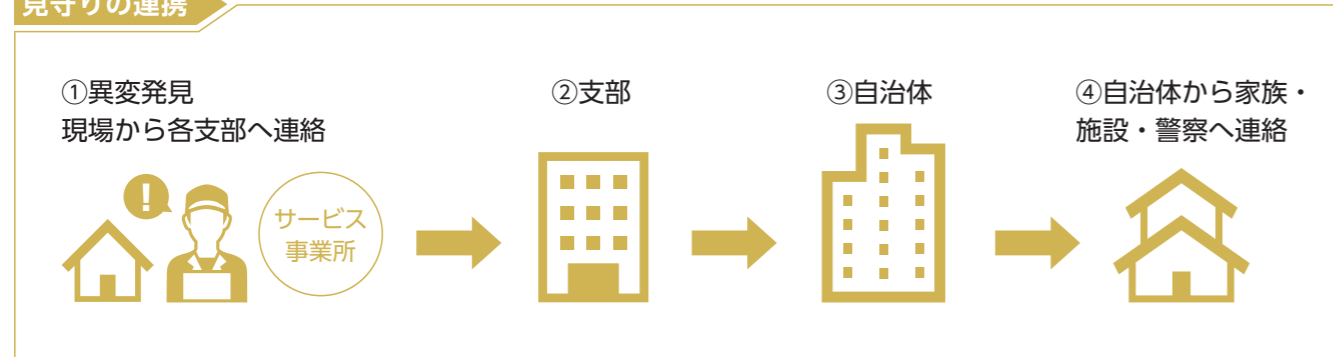
京都生協が提供するサービスは「食」を中心としたものにとどまらず、組合員、地域や行政などと連携しながら暮らしを支えています。時代とともに変化し続ける地域の暮らし、その中で誰も取り残すことなく住み慣れた地域で豊かに生活し続けられるよう絆を大切にしたサービスをご紹介します。

高齢者等の見守り活動

京都府内26自治体のうち、23自治体で「配達時における高齢者等見守り活動」協定を締結しています。宅配事業や夕食サポート事業などそれぞれの事業の特徴に合わせ、各自治体と連携を取りながら見守り活動を行っています。

協定数 **23自治体**
2022年度
見守り通報件数 **30件**

見守りの連携



在宅での暮らしを支援

「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という想いを実現するために、在宅での暮らしを支援する介護サービスを提供しています。生協が定める10の基本ケアを実践し、日常生活動作にリハビリを取り入れるアプローチを行っています。



※生協10の基本ケアとは
https://kyoto.coop/fukushi/basic_care.html

認定取得

福知山ホームヘルプサービスの訪問介護事業では、質の高い介護を実施する「特定事業所」の認定を新たに取得しました。

お買い物サポート

少子高齢化社会の加速などによる買い物困難者が増えています。食品を手に入れることに対して不便を感じる「食品アクセス問題」は、社会的な改善課題となっています。お買い物を通じて顔なじみができたり、外に出る機会が持てる場として重要な役割も果たしています。

🌟 おかいものサポートカー

毎週決まった曜日・時間に生協の店舗まで無料送迎を行う登録制専用車を運行。年齢を重ねるとともにお買い物に出にくくなった方や、車を持たない方のお買い物をサポートしています。



🌟 移動店舗 おかいもの便

店舗が少ない地域を中心に、店舗で販売されている商品で移動販売車を運行しています。自治体や社会福祉協議会と連携し、停留所の拡大を進めています。また、2022年7月から3号車の運行を開始し、高齢者施設や改装休業中のコープ二条駅などを巡回しています。



メディアで紹介

京都新聞社主催の「認知症啓発キャンペーン」にサポーター団体として協賛しており、認知症の情報発信サイト「オレンジ」や京都新聞紙面にておかいもの便が紹介されました。

聞こえが不自由な方への お買い物サポート

耳の聞こえが不自由な方も安心してお買い物ができるよう、全店舗のレジカウンターに「耳マーク」を表示しています。マークを指さしてくださった方には、お支払い時に必要な情報を表示した「ご案内シート」を使ってサポートしています。

コープきぬがさ店の「よくする&よかったよカード」に寄せられた組合員の声から実現しました。



もしもに備えて 京都府総合防災訓練に参加

京都府総合防災訓練に組合員と職員が参加し、救援物資の調達と輸送が円滑に行えるよう車両による訓練をしました。新型コロナウイルス感染防止に対応した避難所開設や地震や水害の複合災害を想定し、避難場所や避難経路、連絡方法の確認、家庭での備蓄など、地域を守り組合員一人ひとりが命を守る行動ができるよう訓練を行いました。

日々の運転で地域に安全を

宅配では安全運転大会を毎年開催し、運転技能や法定知識の再確認や運転技術の向上に取り組んでいます。商品をお届けすることと同時に、地域で生活している方に安心していただけるよう努めています。



社会貢献活動 助成金制度

京都府を拠点にSDGsに貢献するNPOなどの団体の活動を支援することを目的に2019年に制度を創設。2022年度はオンラインでの活動報告会を開催しました。

2022年度助成 9団体 **200万円**

▼2022年度助成対象団体

ハンド&ネイルケアボランティアチーム ガンチー
公益財団法人 ソーシャルサービス協会ワークセンター
特定非営利活動法人 フードバンク京都
藪の傍
特定非営利活動法人 京都DARC (ダルク)
NPO法人 献血と骨髄バンクの和を広げる会
洛西子ども食堂実行委員会 ふれあい食堂けやキッズ
五感で学ぶ料理教室 ククラブ
特定非営利活動法人 健康づくりお助け隊チームファイン

2022年度募金・寄付金

組合員とともにユニセフや震災支援、人々の暮らしを支える多くの募金活動を行い地域や世界に寄付しています。

▼募金・寄付金一覧

募金名	金額	募金名	金額
ユニセフお年玉募金	3,250,720円	くらしを守る取り組みを支える募金	1,748,787円
ユニセフウクライナ緊急募金	5,260,309円	きょうされん募金	2,640,362円
「トルコ・シリア地震」ユニセフ災害緊急募金	1,423,621円※ (2023年7月末確定予定)	くらしの助け合いの会への募金	2,064,825円
ハンガー・フリー・ワールド 「書き損じハガキ等回収キャンペーン」	7,672,841円	平和募金	1,119,940円

※2023年5月現在

私たちが実現したい姿ー2030年ビジョンに向かって取り組むことー

持続可能な世界の 実現に向けて



地球温暖化の影響と思われる災害が頻発しており、私たちの社会・暮らしは持続可能な脱炭素社会への移行を求められています。京都生協では、「環境2030 構想」を策定し、長期的なCO₂削減目標を立て、その取り組みを進めていきます。

環境2030 構想～温室効果ガス削減計画～

2030年までに京都生協グループのCO₂排出量を2013年度比40%削減することを目指します。

- 削減計画を達成するために、事業所設備の省エネ化、既存施設の省エネ、太陽光自家発電・自家消費、CO₂排出係数の低い電気の購入の施策を実施します。
- 削減目標は技術の進歩や社会情勢および事業活動を考慮して3カ年ごとに見直します。

脱炭素社会の実現に向けて

▼CO₂削減量

	2022年度	2021年度	前年差	前年比
CO ₂ 排出量	7,716t	8,407t	-691t	91.8%

京都生協本部、店舗や配送センターの屋上に太陽光発電パネルを設置し、再生可能エネルギーの推進に取り組んでいます。

2022年度は増築した南丹支部に、新たに太陽光発電パネルを設置しました。



2022年度の発電量

約**860,000kWh**

環境保全と地産地消で持続可能な生産を推進

対象商品の利用1品(1個)につき1円の寄付となり生産者やメーカーを応援する活動を続けています。地球温暖化などの影響で失われたサンゴ礁を再生し美しい海を守り続けることを目的に「沖縄県恩納村のサンゴが育てたもずく」のシリーズ展開や、京都の休耕地を活用して生産した飼料米を国産鶏に給餌し産んだ卵を「産直さくらこめたまご」として供給しています。

2022年応援金総額

サンゴ再生もずく基金応援金

329,155円

産直さくらこめたまご応援金

3,028,150円

沖縄県恩納村のサンゴが育てたもずく

生産地の沖縄県恩納村にて、もずく基金の贈呈式と蜜原木の植樹が行われ役職員が参加しました。恩納村はSDGs未来都市に選定されており、この取り組みも自然保護と持続可能な経済サイクルを回す先進的な取り組みとして支持されています。



生物多様性を考える

いきもの学校

生物多様性の大切さや、自然環境が地球温暖化の防止に役立っていることを学ぶ企画として「森林編」「植物園編」「動物園編」の3つの取り組みを行いました。合計で123人が参加し、楽しみながら環境問題を考える場となりました。

加えて自然環境の果たす役割について学ぶ「いきもの学校」などの取り組みが評価され、「京都環境賞・特別賞」を受賞しました。



私たちが取り組むリサイクル活動

組合員とともに宅配や店舗で使用した容器や包材、カタログを回収し再生品の原材料とするサステナブルな取り組みを続けています。

	宅配	宅配・店舗	店舗	店舗	店舗	
回収品目	内袋・注文書セット袋	カタログ類	紙パック	卵パック	トレー	ペットボトル
用途	プラスチック製品の原料	新聞用紙、印刷用紙	トイレロール、ティッシューパーなど	卵パックの原料	トレー	サラダ容器・お刺身容器のふたなどの透明トレーへ
回収量(t)	34.9	4,262.5	121.0	39.7	23.6	95.6
回収率(%)	19.5	74.8	45.3	68.6	70.6	195.1*
CO ₂ 削減量(t-CO ₂)	-	-	108.1	146.8	116.9	310.7

*京都生協での供給量以上の量を回収しています。

*コープで集めたペットボトルは今後コープ商品パッケージの再生ペットボトルフィルム原料の一部になっていきます。

店舗ではペットボトルキャップを回収しています。その売却益は、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、病気の子どもとその家族が利用できる滞施設の建設費と運営費に充てられます。

ペットキャップ回収量

528万個

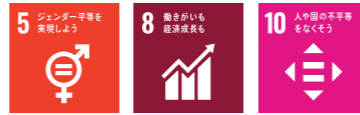
SR・環境目標

A良好(100%以上達成)、Bやや不足(90%以上達成)、C不適合(90%未満)

中核主題	2022年度の目標	2022年度の取り組み	評価
1 組織統治	コンプライアンスの周知徹底を行います。	職員へのCSR教育とアンケート、取引先へのアンケートにより、コンプライアンスの周知徹底を行いました。	A
2 人権	障害者雇用率3.75%を目指します。	障害者雇用率は3.8%となりました。	A
3 労働慣行	業務改善提案・報告件数43件を目指します。	業務改善提案・報告件数は、51件となり、目標比118.6%となりました。	A
4 環境	CO ₂ 排出総量の削減を、2021年度比97%とします。	CO ₂ 排出量は、7,716tで前年比91.8%となり、目標比105.7%となりました。	A
	使い捨てプラスチック製容器・包装の使用量を2018年度比1%に削減します。	使用量は414,153kg、2018年度比108.7%となりました。供給高の伸長に伴い、使用量が増加しています。	B
	リサイクル回収総量2021年度比98%とします。	リサイクル回収総量は、4,577tでした。目標比99.4%、前年比97.4%となりました。トレー、内袋で回収量が増加しました。	B
5 公正な事業慣行	エシカル消費対応商品の供給数量を2021年度比98%として、普及を図ります。	エシカル消費対応商品の総利用点数は、約2,536万点(前年比110.1%、目標比112.4%)となり、利用が広がりました。	A
6 消費者課題	店舗のフードドライブ実施店舗数を1店舗増やします。	フードドライブの実施店舗が、3店舗増えました。	A
	食品リサイクル率の向上に向けた調査研究を行います。	他生協などの事例を調査し、「課題と今後の方向性の進捗」を報告しましたが、まとめの作成には至りませんでした。	C
7 コミュニティへの参画・コミュニティの発展	研修受け入れ・学習会の開催80回を目指します。	学習会、事業所見学などの年間活動総数は101回となりました。	A

私たちが実現したい姿ー2030年ビジョンに向かって取り組むことー

多様性を認め合う 活力ある組織を目指して



京都生協は新たな希望をつくることをビジョンに掲げ、多様性を認め合う、活力ある組織を目指し、職員が安心して働き続けられる職場環境づくりに取り組んでいます。

ライフスタイルに合った職場環境づくり

子育てや介護といったライフサイクルの変化にも柔軟に対応できる制度の推進に力を入れています。特に、子育てをしながら働ける職場環境を目指し正規・専任・パート職員までを対象とした出産祝い金の給付や、最大3年間の育児休業の取得、育児時短制度など対応を進めています。男性の育児休業取得率も増えており、性別を問わず子育てに時間を充てられる職場環境づくりを推進しています。

制度活用量数一覧

育児休業取得者	育児時短利用者	男性育児休業取得率	シニア嘱託職員制度活用者
14人	11人	38% ※	26人

※対象者8人のうち取得者3人

育児時短の期間を小学校卒業まで延長

改正育児・介護休業法で求められる対応への改定が求められるなか、京都生協では子育て中の職員に対して子どもが小学校に入学してから卒業するまで、取得可能な育児時短勤務の期間を延長しました。小学校に通う子どもの長期間の傷病や看護が必要となった場合などに一定期間業務時間を短縮できる制度があることで、職員が子どもとの時間を大切にしながら安心して働き続けることができる環境づくりを進めるため今回の制度改定を行いました。

求められる対応

改正育児・介護休業法で求められる対応とは、出生時育児休業(産後パパ育休)・育児休業の分割取得・育児休業開始日の柔軟化のこと。



デジタルシフトの推進

組織・人材・業務をデジタルの力で改革し、持続的成長を遂げるための基盤づくりを進めています。ご加入の手続きでのタブレット導入や、店舗はセミセルフレジの導入拡大や商品発注の自動化などを取り入れました。また、3つのレス(脱はんこ・ペーパーレス・FAXレス)の推進で業務改善をしたり、デジタル推進の担い手を増やしていくための「デジタル推進リーダー」制度を運用しています。これらの取り組みについて全国の生協職員向けオンラインイベント「コープデジタルフォーラム」にて専務理事が講演を行いました。

障害者雇用優良事業所等知事表彰

京都生協の特例子会社であるハートコープきょうとが、令和4年度京都障害者ワークフェアにて「障害者雇用優良事業所等知事表彰」を受賞しました。本表彰は京都での障害者支援の一環として、これまで障害のある方の雇用の促進と安定に貢献する事業所、また障害と向き合いそれぞれの職場において長く勤められた優秀な個人に対しその功績及び努力を讃えることを目的に行われています。



障害者雇用率 **3.8%**

ハートコープきょうと

障害者雇用促進法に基づき設立された京都生協100%出資の特例子会社。パートナー企業としてリサイクル事業などを通じ、障害者の自立支援と雇用促進、環境保護など社会に貢献しています。2018年に京都はあとふる企業の認証を受け、以降「優良事業所」「優良勤労者」として京都府知事賞の受賞を継続しています。

運営参加

生協運営のしくみ

生協が社会的責任を果たすためには、「機関運営」が適正に行われることが必要です。

生協で機関に当たるのは、最高議決機関としての「総代会」、総代会決定に基づいて重要事項を決定する「理事会」、生協を代表して業務を執行する「代表理事」、理事による業務執行の状況を監査し、適切な業務が行われるようにする「監事」です。

経営責任

内部統制システムの整備

公正で健全な組織運営を行うため、2010年に「内部統制基本方針」を定め、以下4つの目的を達成するために、毎月開催するリスク管理委員会で整備計画の進捗管理を行っています。また、独立の立場で経営諸活動の全般にわたる制度および業務執行状況を監視・検証するとともに、内部統制システムの構築の進捗状況、運用状況や有効性などについてモニタリングを行うため、内部監査担当による監査を実施しています。



業務マネジメントシステムの運用

「目指すべき方針や目標を定めて、その目標を達成させるための仕組み」として、「業務マネジメントシステム」を運用しています。仕事の改善を進め、組合員満足の向上、商品・サービス品質の向上、事業計画の達成を目指します。

コンプライアンス態勢の推進

倫理・法令や社会規範、職場のルールを守り、正直で誠実な事業と活動を進めるための職員教育に取り組んでいます。2005年に「コンプライアンス基本方針」「コンプライアンス自主行動基準・順守事項」を定めて、職員にコンプライアンス順守、ハラスメント防止、ネット上での情報発信の注意、飲酒運転の撲滅などの啓発をしています。

組合員とのコミュニケーション

組合員コールセンターを設置し、組合員からの問い合わせにきめ細やかに対応することで、より良いサービスを多くの組合員に届けています。

組合員コールセンター対応件数

意見・要望	175,556件	問い合わせ	124,147件
苦情	54,643件	合計	354,346件

事業継続計画 (BCP)

台風・豪雨などの災害に対して、京都生協では事業継続計画 (BCP) に基づき「自然災害対応マニュアル」に沿った対応をしています。他団体との通信訓練や職員の安否確認訓練などを定期的実施するとともに、行政などの多様な組織と連携した取り組みを進めています。また、「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」を定め、実効的な対応を行ってきました。今後は情報セキュリティ対策の強化も重点に据え、暮らしを支える事業の継続に努めます。

外部審査の結果

特定非営利活動法人KES 環境機構に登録し、毎年の定期審査を受け、業務マネジメントシステムが有効かつ適切に機能・維持されているかを審査しています。

■審査機関：特定非営利活動法人KES *環境機構

*京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格

- ◆審査結果：KESステップ2SRに適合していると判定されました。
- ◆受審組織：京都生活協同組合
- ◆審査実施日：2022年9月15日・16日
- ◆適用規格：KESステップ2SR
- ◆審査目的：京都生協のマネジメントシステムが、KESステップ2SRの要求事項に適合しているかを審査すること。

コンプライアンス相談

職員相談件数 **96件** 取引先相談件数 **0件**

事業紹介

■宅配事業

京都府全域に週に1回、食品から日用品、雑貨までさまざまな商品をお届けします。

■店舗事業

安全・安心の品揃えとサービスを提供し、日々のお買い物から暮らしを支えます。

■福祉事業

「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という想いのために、きめ細やかな介護サービスをお届けします。

■共済事業

全国の組合員同士の「助け合い」の気持ちから生まれた保障制度です。

■葬祭事業

宗教・宗派・形式を問わずご葬儀から仏壇仏具まで、旅立ちのときをお手伝いします。

宅配

供給高：**588**億円（前年比**99%**）
利用人数：**183,234**人/週

店舗

供給高：**241**億円（前年比**92%**）
利用人数：**30,484**人/日

福祉

事業収入：**4億3,373**万円（前年比**91%**）
利用人数：**1,307**人/月平均

共済

手数料収入：**8億2,573**万円（前年比**100%**）
保有件数：**270,971**人

葬祭

供給高：**9,291**万円（前年比**106%**）
クオレ会員数：**12,143**人

サービス

■夕食サポート

管理栄養士によってカロリーや塩分を考慮したお弁当の配達サービス「夕食サポート」を展開しています。

利用人数：**3,788**人/週

■コープでんき

「コープでんき」は、温室効果ガス(CO₂)の排出が少ない、環境に配慮した電力のお届けを目指しています。

週あたりの累計申し込み件数：

24,522件/累計

■おかいものサポートカー

組合員の暮らす地域と店舗を結び、登録制の送迎車「おかいものサポートカー」を運行しています。

運行店舗数：**10**店舗 登録者数：**835**人

■移動店舗 おかいもの便

近隣に小売店がなく、お買い物が不便な地域を中心に「おかいもの便」を運行しています。

週あたりの利用人数：**700**人

停留所：**92**カ所

グループ会社

京都協同食品プロダクト(株)

水産・畜産の生鮮加工食品の製造、販売を行う、京都生協の加工センターです。

(株)京都コープサービス

各種保険、リフォーム・新築、カルチャー教室、さまざまな斡旋サービスなど、毎日の暮らしの快適さを実現する多彩な商品サービスをご案内しています。

(株)コープネットワークサービス

京都生協の物流や宅配事業を中心に業務を行っています。

(株)コープストアサービス

コープのお店9店舗で、インスタアベーカーリーの運営を行っています。

(株)ハートコープきょうと

京都生協の特例子会社として、リサイクル事業を通じて障害者の自立支援と雇用促進、環境保護などの業務を行っています。